

ユネスコ

2020.1
vol. 1167



首里城

首里城は、「首里城跡」として、世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の構成資産のひとつとして登録されている

CONTENTS

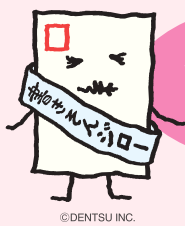
- 1 2020年書きそんじハガキ・キャンペーン
- 3 新年ご挨拶 佐藤 美樹
- 4 TOPICS
 - 寺子屋スタッフ、学習者の来日レポート
 - ブロック・ユネスコ活動研究会報告
- 7 ユネスコ活動の広場
- 8 活動報告
 - ユネスコ協会就学支援奨学金
 - MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金
 - アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム
 - サイエンス・スクール
 - ユネスコスクール全国大会/ESD研究大会
 - 未来遺産運動
 - 世界遺産活動
 - 世界寺子屋運動
 - 韓国ユネスコ協会連盟全国大会
 - 理事会・評議員会報告
 - 新規加入維持会員のご紹介
- 11 お知らせ・募集

首里城復興ユネスコ募金へ ご協力をお願い

2019年10月31日、沖縄の歴史と文化の象徴である「首里城」が焼失したことは、日本中に大きな衝撃と喪失感をもたらしました。日本ユネスコ協会連盟では、首里城の一日も早い復興を願い、翌日から「首里城復興ユネスコ募金」の受付を開始しました。皆さまからお寄せいただいた募金は、開始から約2ヵ月で1856万2708円に達しております。募金を寄せてくださった方、周囲に協力を呼びかけてくださった方など、全国の皆さまが団結して協力の手を差し伸べてくださいましたこと、心より御礼申し上げます。首里城の復興に向けて、支援の輪を広げていくため、引き続き皆さまのご協力をお願いいたします。

きょういくで、あしたへいく。

2020年 書きそんじハガキ・



書きそんじハガキ・
キャンペーンとは？

書き間違いや使わなかったなどの理由で投函されなかった未使用のハガキや切手、商品券やプリペイドカードなどの金券を回収し、現金に換金して「世界寺子屋運動」の活動に活用しています。ハガキなどは通年受け付けていますが、年賀状をはじめ、新年度で書きそんじハガキが出やすい12月～翌年5月をキャンペーン期間として、重点的に募っています。

ハガキやプリペイドカードが支援につながるまで



未使用ハガキ・
切手などを集めて送る



集計して換金



ハガキ11枚でひとりがひと月学校に

「書きそんじハガキ」で世界の教育を支援

書きそんじハガキ回収による支援金づくりというアイデアは、岐阜県ユネスコ協会で着想されました。そして1990年からは名古屋国際センターが世界寺子屋運動にこのシステムを導入し、ボランティアの協力で大きく広がっていきました。1990年当時ではどこの団体も同様の活動はしておらず、斬新な発想でした。全国から20万枚を超えるハガキが集まり、これが今日の「書きそんじハガキ・キャンペーン」につながっています。前回のキャンペーンでは、166のユネスコ協会・クラブをはじめ、企業や団体、ユネスコスクール、個人など多くの方々にご協力をいただきました。

近年、年賀状を送る人が減っており、年賀はがきの販売枚数は2004年の約44億5900万枚から2018年には24億枚まで、およそ45%も減少しています。若年層がSNSを利用するため年賀状を出さないだけでなく、これまで継続的に出していた人が年賀状を「卒業」するケースも増えているようです。

前回は4200万円分集まった！

そのようななか、前回のキャンペーンでは4200万円分の書きそんじハガキ（47円計算で約89.3万枚相当）が日本全国から集まりました。皆さまのご支援に感謝申し上げます。

送られたハガキには「少しですが役立ててください」「子どもたちの教育に使ってほしい」というコメントが添えられていることもあり、皆さまの思いを現地に届けられるよう活動を続けています。

書きそんじハガキによるご支援は、世界寺子屋運動を支える大きな力となっており、2019年度にはアフガニスタン、カンボジア、ネパールおよびミャンマーの4カ国で6000人以上の子どもや大人が、寺子屋で学びの機会を得ることができました。



厳重な管理のもと、会員のボランティアに仕分け作業をいただいている

キャンペーン



こんな取り組みをしています！

仙台ユネスコ協会（宮城県）

会員の方がUnicefとUNESCOの違いを明確にするため、成人女性に焦点を当てたオリジナルのチラシ（写真）を作成。世界寺子屋運動が支援している大人の女性たちの写真や説明、書きそんじハガキの流れが詳しく書かれています。



長浜ユネスコ協会（滋賀県）

市内の幼稚園や保育園、小中高校、図書館、行政、企業など135カ所もの場所に回収BOXを設置し、書きそんじハガキ回収を呼びかけました。また、市の広報誌やホームページのほか、市役所に数カ所設置の電光掲示板（写真）でも広報を行いました。



キャンペーン2019の第1位 鹿児島ユネスコ協会

事務局のある県庁を通じて、鹿児島県内の公立・私立の小学校から大学、専門学校900校以上に、書きそんじハガキ・キャンペーンのグッズを送付しています。また、県の広報を活用して、テレビ、新聞、ラジオに出演するなど広範囲に回収を呼び掛けています。



CSR活動の一環でご協力 株式会社電通

本キャンペーンのキャラクター「ダンス遺産三兄弟」は、株式会社電通の社会貢献活動によって誕生しました。同社にはこのほか、さまざまな媒体での広報活動にもご協力いただいています。今年も新しいキャンペーン動画が完成しました。You tube「書きそんじ 2020」で検索を！



世界寺子屋運動とは？

寺子屋は年齢、宗教、性別にかかわらず、すべての人が公平に学べる場です。主に非識字者や貧困層の人たちが多くアジアで展開しています。識字教育や職業訓練など、各国のニーズに合わせてプログラムを組み、教育を通じた貧困削減と持続発展への貢献モデルとなっています。



グッズもご用意しています！



学校や企業などグループで活動する際に便利な、ハガキ回収ボックスやポスターなどのグッズをご用意しています。ご希望の方は、お気軽にご連絡ください！

引き続き、皆さまのご参加、ご協力をお願いいたします！

送付・お問い合わせ先

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-3-1 朝日生命恵比寿ビル12階
公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟 書きそんじハガキ係
TEL 03-5424-1121 Email: jigyo@unesco.or.jp



「誰一人取り残さない」社会の実現に向けて

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟 会長 佐藤 美樹^{よしき}



明けましておめでとうございます。

昨年は、「世界寺子屋運動」を開始して30周年という記念の年でした。この活動では、途上国での教育機会の提供や生活向上のためのさまざまなプログラムを実施し、この30年間に44ヵ国1地域、131万人を超える人びとに対して学びの機会を提供してきました。かつての寺子屋学習者が、いまでは地元の中学校の校長を務めるなど、長年続けてきたからこそその成果もあり、長きにわたりご支援いただいている皆さまに心より感謝申し上げます。

しかしながら、世界には文字の読み書きや計算ができない非識字者がいまだに7億5000万人存在し、また、6～14歳までの子どもたちのなかで学校に行けない状態にある子どもは、少なくとも1億2400万人いると推定されます。このような教育の問題以外にも、貧困、差別、紛争の拡大、地球温暖化など、さまざまな課題に直面しています。こうした世界的な課題を解決するための大きな目標が、国連の掲げる「持続可能な開発

目標 (SDGs)」です。

本年、東京で開催されるオリンピック・パラリンピックも、SDGsを踏まえ、環境や人権に配慮した運営が進められています。持続可能な世界に向けた取り組みは、今後ますます求められてくるでしょう。

SDGsの達成目標年まであと10年となりました。草の根の立場からユネスコ運動を推進する私たちだからこそ、できる活動は何か、課題解決にはどのようなアクションが必要なのかを、ひとりでも多くの方とともに考え、行動していくことが、持続可能な世界を実現する一歩になります。SDGsの担い手として、「Peace for Tomorrow 広げよう平和の心」をビジョンに、「誰一人取り残さない」社会づくりを力強く推進していきましょう。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

2019年 ユネスコ活動の現場訪問

2019年は、カンボジア寺子屋訪問をはじめ、日本ユネスコ運動全国大会、四国ブロックおよび関東ブロックのユネスコ活動研究会などに参加しました。

○カンボジア寺子屋を訪問しました

8月21日から5日間、チョンクニア村、トレイニョル村、タヤック村の3カ所の寺子屋を訪問しました。夜間識字クラス、復学支援クラスなど、子どもから大人まで真摯に学ぶ姿を見てきました。また、カンボジア教育・青年・スポーツ省副大臣などにもお会いし、現地の関係者から私たちの寺子屋プロジェクトが非常に高く評価されていることを実感しました。



タヤック寺子屋の復学支援クラスの子どもたちは学習意欲が高く、活気にあふれていた



カンボジア教育・青年・スポーツ省 Nos Sles副大臣(右から4人目)を訪問

未来のあたりまえをつくる。



DNP
大日本印刷



東京2020オフィシャルパートナー(印刷サービス)

DNPは、東京2020オリンピック・パラリンピックを応援しています。

ブロック・ユネスコ活動 研究会 報告

2019年も9月末から11月にかけて、全国9ブロックでブロック別ユネスコ活動研究会が行われ、熱心な議論・研修が繰り広げられた。世界寺子屋運動30周年を記念して、北海道、中部東、四国で世界寺子屋運動を展開する国（アフガニスタン、カンボジア、ミャンマー）の現地職員などが各地の活動について報告した。

2020年度からは、ブロック研究会を持続可能な形で実施していくために、原則1日開催として新たなスタートを切る。

■ 北海道ブロック・ユネスコ活動研究会

**テーマ：学ぼう！築こう！平和のこころ
～子どもたちの未来に向かって～**

11月2日（土）・3日（日） 北海道札幌市

主管：札幌ユネスコ協会 参加人数：約200名

【主なプログラム】

- ・基調講演「君の椅子プロジェクト」
- ・SDGsに関する啓発映像コンテスト入賞校発表：
札幌藻岩高等学校、札幌新陽高等学校
- ・札幌ユネスコ協会の活動について
- ・世界寺子屋運動～カンボジアの今～
- ・地区ユネスコ協会の活動：

室蘭ユネスコ協会（大谷室蘭高等学校）、岩内ユネスコ協会

北海道ブロックの底力を見せつけたプロ研

主管である札幌ユネスコ協会や高校生の活動など、それぞれの報告の中身が濃く充実した内容であり、大変有意義な研究会となった。またカンボジア事務所のクラン・バンタイ職員の報告には、世界寺子屋運動に対する取り組みに積極的な北海道ブロックの会員から多くの質問が飛び交い、盛況なものとなった。

（事業部：尼子 美博）



■ 関東ブロック・ユネスコ活動研究会

**テーマ：Peace for Tomorrow（ひろげよう平和の心）
平和な社会を目指し、共に学び・共に語ろう**

10月5日（土）・6日（日） 埼玉県蓮田市

主管：蓮田・白岡地方ユネスコ協会 参加人数：421名

【主なプログラム】

- ・パネルディスカッション
「地球規模における環境変化—南極からの警鐘」
- ・分科会
世界寺子屋運動、ユネスコスクール、ユネスコ活動活性化・会員増、世界遺産・未来遺産
- ・青少年ユネスコワークショップ
- ・日本ユネスコ協会連盟セミナーなど

参加型ブロック別研究会

さまざまな場面で、参加者も発言できる時間が設けられている。とくにパネルディスカッションは大変好評で、質疑応答の時間が足りなくなるほど多くの質問が出た。また、参加者からは、「専門家による貴重な話によって、環境悪化が深刻であることがわかり、この問題の解決に向けてできることを考えていきたい」との感想があった。

（事業部：井上 葵）



■ 中部東ブロック・ユネスコ活動研究会

**テーマ：「Bright Tomorrow」
～語ろう！魅力ある民間ユネスコの明日を～**

11月9日（土）・10日（日） 静岡県磐田市

主管：磐田ユネスコ協会 参加人数：約140名

【主なプログラム】

- ・基調講演「未来へのユネスコ活動—原点は自然環境—」
今村 信大氏
- ・事例発表：磐田ユネスコ協会青年部
- ・分科会
豊かな自然や地域遺産を次世代へつなぐ、他を思いやる心を育む、活動を未来につなぐ、ユネスコの理念の認識を深める（青年部）

子どもを通して、地域社会を通して、次世代につなぐ

SGDsに向かっていろいろな活動が地域地域で行われているのは、地球をこのままで大丈夫という状態に持っていくためである。将来その試みを担うのは若い人びとであり、民間のユネスコの立場から「つないでいく」ための話し合いが大きな柱となった。

（事業部：関口 広隆）



■ 東北ブロック・ユネスコ活動研究会

テーマ：築こう持続可能な社会、広げよう平和の心

10月19日（土）・20日（日） 岩手県遠野市

主管：遠野ユネスコ協会 参加人数：約270名

【主なプログラム】

- ・特別講演
「幸せの近道—日本で暮らして思うこと—」 バイマーマンジン氏
- ・記念講演「遠野物語と地域文化の継承」 黒田 篤史氏
- ・プロジェクト未来遺産活動紹介
- ・実践発表：「岩手におけるESDの取り組み」
遠野緑峰高等学校・草花研究班など

「遠野物語」の郷で、文化継承を通じSDGsを目指した地域づくり

被災地域の景観を子どもとともにいかに復興し保っていくか、民話息づく豊かな農村をどう育てるか、熱い議論に沸いた2日間。地元産ホップの



■ 中部西ブロック・ユネスコ活動研究会

テーマ：地域ユネスコ協会から世界へ発信

11月9日(土)・10日(日) 石川県金沢市

主管：石川県ユネスコ協会 参加人数：約110名

【主なプログラム】

- ・基調講演「SDGsの行動につなげるために」永井 三岐子氏
- ・事例発表：

石川県ユネスコ協会、金沢西高等学校、金沢青陵大学

- ・ワークショップ：

提言を作ろう！「ユネスコ協会が青少年育成とSDGsを進めていく具体的な手立てを考える」

SDGsの実現に向けた具体策の提言 そして青年の育成へ

全体を通して青年主体で「参加型」を意識したプログラムとなった。ディスカッションを通して、青年と大人が同じテーマで提言を作成。SDGsの実現に向け、世代を超えて互いの気づきを共有しあう充実した時間となった。

(事業部：仁藤 里香)



■ 近畿ブロック・ユネスコ活動研究会

テーマ：持続可能な地域づくりをめざして

10月5日(土)・6日(日) 堺市総合福祉会館

主管：大阪府ユネスコ連絡協議会 参加人数：約120名

【主なプログラム】

- ・パネルディスカッション
「学びあい・つながりあいから活性化へ」
- ・講演「平和の文化—いま」鈴木 佑司 理事長
- ・講演「百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録の意義」

勝真 雅之氏

- ・分科会

世界寺子屋運動、世界遺産・地域遺産、ユネスコ協会と学校の連携、多文化理解・多文化共生

学びあい・つながりあいから民間ユネスコ活動の活性化へ

分科会では、SDGsをキーワードに多くの気づきや学びを共有。SDGsは目標であり、それを達成するために行動を起こすのがESDである、その行動基盤には自主性、人権尊重、文化の相互理解が不可欠である、と米田顧問から総括があった。

(事業部：仁藤 里香)



■ 四国ブロック・ユネスコ活動研究会

テーマ：持続可能な社会の実現に向けたユネスコ活動

9月28日(土)・29日(日) リーガロイヤルホテル新居浜

主管：新居浜ユネスコ協会 参加人数：約110名

【主なプログラム】

- ・基調講演「ESDとユネスコスクール」近森 憲助氏
- ・事例発表：
泉川小学校、船木中学校、新居浜南高等学校ユネスコ部ほか
- ・講演と落語「『笑い』を深く理解すると平和が生まれる!」
- ・日ユ協連プログラム「ミャンマーにおける寺子屋活動」

教育委員会との連携によるESDの推進を通して

市内の全27小中学校がユネスコスクールである愛媛県新居浜市。児童による持続可能な社会の実現に向けた活動事例報告などを通じ、講演者の近森氏は「過去に学び遠い将来を生きる同胞を思いながら、いま私たちはどう生きるべきか、どう生活するべきかを考えられる子どもを育てることがESD」と述べた。

(事業部：仁藤 里香)



■ 中国ブロック・ユネスコ活動研究会

テーマ：SDGsの達成に向けたESDとユネスコ活動

9月28日(土) 岡山国際交流センター

主管：岡山ユネスコ協会 参加人数：約100名

【主なプログラム】

- ・中国地区内ユネスコESD活動団体(個人) 顕彰
- ・ユースによるユネスコ活動プログラム
- ・SDGsの達成に向けたESDとユネスコ活動について
- ・トークセッション、グループディスカッション

「ESD for 2030」のキックオフを岡山から

市をあげてESDを推進してきた岡山での研究会は、2020年から始まる「ESD for 2030」の、ローカルレベルでのキックオフとなる強いメッセージを発信しようという目的で開催された。ユースから大学教授、市長までESDに取り組んできたさまざまな関係者が出演し、SDGsの達成に向けたESDとユネスコ活動のあり方について、参加者全員で検討する会となった。

(事業部：尼子 美博)



■ 九州ブロック・ユネスコ活動研究会

テーマ：九州から広げよう!

持続可能なユネスコ活動と地域連携

11月9日(土)・10日(日) 福岡県久留米市

主管：久留米ユネスコ協会

参加人数：会員35名+一般参加者約100名

【主なプログラム】

- ・基調講演「福岡県内の世界遺産と今後の取り組み」あが ひろお 縣 博夫氏
- ・特別講演1
「古代ローマ遺跡ポンペイ・ヘルクラネウムの研究と保護、そしてオステリア」池口 守氏
- ・特別講演2
「地域を語る言葉を増やす〜レゲエ楽曲制作実践の報告とビジョンについて〜」かやもと しゅうじ 神本 秀爾氏

福岡から世界遺産、ESD、SDGsを考える

地域の話から世界の話まで幅広い発表が行われた。一般参加者も多く、関心の高さが伺えた。久留米大学でもSDGsへの取り組みに力を入れており、今年度から久留米ユネスコ協会と連携していくとのこと、学生が運営の手伝いに来ていた。アットホームで充実した会となった。(事業部：井上 葵)



ユネスコ活動の広場

皆さまからのお便りをお待ちしています。

50年目になる青少年キャンプ

●高崎ユネスコ協会（群馬県）

高崎ユネスコ協会では、毎年夏の恒例事業として「高崎ユネスコ青少年キャンプ」を開催している。今年度は8月7日（水）から2泊3日で、倉渕わらび平森林公園で実施。47回目を数える本事業、今年で50年目の節目を迎えた高崎ユネスコ協会の創立当初から続く青少年育成事業である。小学4年生以上を対象とした歴史あるキャンプでは、自然体験や地域遺産巡り、英語ゲーム、班名につけられた世界の国について調べて発表するなど盛りだくさん。当日は地元の高崎経済大学生もスタッフとして活躍した。



キャンプの目玉、源流探索で「ひゃー冷たいよ」と子どもたち

世界遺産の古墳群の魅力を体感する エクスカッション

●堺ユネスコ協会（大阪府）

2019年度の近畿ブロック研究会in大阪のエクスカッションでは、堺ユネスコ協会企画の「百舌鳥・古市古墳群巡り」を実施。昨年7月に世界文化遺産登録された百舌鳥・古市古墳群を一望する堺市役所展望ロビーからスタート。堺市博物館では、古墳の歴史や構造、古代から近代までの堺の歩みについて学んだ。伝仁徳陵では人工とは思えない山のような偉容に古代の労力や技術を想像し、住宅地にひっそり佇む「いたすけ古墳」では、土地開発から古墳を守った地域住民による保存運動の名残である橋の残骸を見ることができた。古代ロマンに思いを馳せるとともに、地域の人びとの古墳に対する愛情にも触れる見学となった。



南西から見た百舌鳥古墳群（堺市博物館提供）

親子2代続く参加者も！

ユネスコ・サマーチャレンジスクール

●防府ユネスコ協会（山口県）

2019年7月22日（月）・23日（火）に、国立山口青少年自然の家で開催、市内の小学生42人が参加した。スクールの目的は、自然に親しみ、社会性やたくましい実践力を養うとともに、国際平和について学ぶこと。1日目は、いろいろな国の人との交流、ユネスコ学習、チャレンジハイキング、星空観測、2日目は、茶道体験、野外炊飯でポンボラ飯づくりなどの充実した内容。

参加者からは、皆と協力することの大切さや、「外国人との交流で言葉を話さなくても心が通じることを学んだ」「友だちができるか心配だったけど、すぐにできたのでよかった」という感想も。今年度、創立70周年を迎える中で、65年の歴史を誇る代表的な事業。親子2代での参加者も多い。時代に合った内容に見直しを図りながら、今後も継続する予定だ。



通称「ユネスコ小学校」と呼ばれ、毎年すぐ定員に達する

地元企業と共同開催で人気コンクールに

●沖縄県ユネスコ協会（沖縄県）

沖縄県ユネスコ協会と、かりゆしグループが共同開催している第18回「おきなわの観光絵画コンクール～絵で伝えよう！私のまちのたからもの～」の表彰式を、11月23日（土）に行った。このコンクールは、沖縄の観光をテーマに、特性のある自然や歴史、郷土の価値を再認識しつつ、観光、文化や世界遺産に対する理解を高めることを目的に開催。応募総数4364点の中から沖縄県ユネスコ協会会長賞など各賞が選ばれた。2013年の第12回までは沖縄県ユネスコ協会独自で開催してきたが、観光業に携わるかりゆしグループが同様の絵画展を開催していることがわかり、第13回から共同で開催している。共同開催により応募数も増え、地元根付いた絵画展として広く愛されている。



沖縄県ユネスコ協会会長賞（小学校低学年の部）受賞作。沖縄の伝統行事「ハーリー」を描いた

東日本大震災子ども支援募金 ユネスコ協会就学支援奨学金

「ユネスコ協会就学支援奨学金」は、東日本大震災によって経済状況が悪化したご家庭の高校進学を希望する中学3年生を対象とする、返済義務のない給付型の奨学金プログラム。奨学金は、3年間奨学生一人ひとりのご家庭に直接お送りしている。

2020年度も宮城県気仙沼市と岩手県陸前高田市で奨学生を新規採用する予定。子どもたちの学びを支えるために、引き続き、皆さまからの温かいご協力をお願いいたします。

(企画部：小崎 好美)

奨学生からのお便り

私は無事に希望高校へ入学することができました。支援をいただいたお金で、制服や学用品の準備ができて今では新しい友達もできて、楽しく高校生活をスタートすることができました。これもみなさんのおかげです。本当にありがとうございます。これからも感謝の気持ちを忘れず高校生活を送りたいと思います。

MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金

震災により親を亡くした小学校から高等学校までの児童、生徒を対象とした標記奨学金事業は、今年度で9年目となる。最終奨学生が高校を卒業する2025年度まで継続する。

(事業部：仁藤 里香)

保護者からのお便り

おかげさまで1年をまた平穩に過ごすことができました。子どもたちは中学、高校への新たな節目を迎えました。皆さまへの感謝を忘れず、この1年も健康に過ごせたらいいなと思います。いつもありがとうございます。

第6回 アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム 教員研修会 in 気仙沼

2019年9月16日(月)～18日(水)、標記プログラムの助成校の先生35名が全国各地から参加し、被災地・気仙沼市で、東日本大震災の教訓を活かした減災教育について学ぶ教員研修会を実施した。

各地の学校で減災教育に携わる先生方は、気仙沼市で大きな被害を受けた階上(はしかみ)地区の小・中学校などを訪問し、子どもたちや先生方との対話や授業視察、専門家による講義やワークショップを通して、先進的な減災教育の実践を真剣に学んだ。

プログラムWebサイト <https://unesco.or.jp/gensai/>

(企画部：上岡 あい)



津波で壊滅的な被害を受け93名の住民の方々が犠牲になった杉ノ下地区は階上小・中学校の校区。先生方は慰霊碑で献花し、黙祷を捧げた

サイエンス・スクール

MSD株式会社との協働事業として、MSDの社員が講師となっており、「いのちと健康」をテーマに出前授業を行っている(小学5、6年生対象)。子どもたちに生命や科学への興味を持ってほしいと、2011年度から継続しているが、今年度よりAR(拡張現実)技術を導入したり、光るウイルス模型ブロックを使ったりと授業が一新され、さらに楽しく学べるようになった。今年度は、沖縄県浦添市立前田小学校(協力:沖縄県ユネスコ協会)、三重県津市立南立誠小学校(協力:三重県ユネスコ連絡協議会、津ユネスコ協会)、富山県富山市立中央小学校(協力:富山ユネスコ協会)、埼玉県熊谷市立長井小学校で実施し、各地ユネスコ協会のご協力、ご参加もいただいた。

(事業部：井上 葵)



薬がどのように体を巡っているのかiPadを使って体験した

第11回ユネスコスクール全国大会／ESD研究大会 分科会報告

2019年11月30日(土) 広島県福山市立大学で、標記大会(日本ユネスコ協会連盟共催)が開催された。当連盟は初めての分科会を開き、安田昌則理事と及川彦彦理事主導のもと「持続可能な社会づくりに向けて育む力」について学び合いを深めた。満席となった教室では、約60名の参加者が「SDGsアシストプロジェクト(協力:株式会社三菱UFJ銀行)」の実践校(小中高)による事例発表、並びに両理事の一言一句に耳を傾けるとともに、校種別に活発な意見交換を行い、平和のためにESDが果たす役割を再確認した。

(事業部：香渡 里沙)



熱心に耳を傾ける参加者たち

未来遺産運動

チームエナセーブ未来プロジェクト

今年で7年目を迎えた「チームエナセーブ未来プロジェクト」。ダンロップ（住友ゴム工業株式会社）とともに、100年後の子どもたちに地域の文化や自然を守り、継承していくことを目指す協働事業だ。「プロジェクト未来遺産」に登録されている活動に、ダンロップ社員が参加し、毎年全国8～10ヵ所で環境保全活動を実施している。2019年は8ヵ所での活動が終了した。9月以降は、北海道白老町でトラストの森の保全活動、岡山県美作市で棚田の保全活動、福岡県福岡市で和白干潟の保全活動を行った。

「StarHeritage」プログラム

ジェットスターの就航先をはじめとする、日本各地の貴重な地域文化・自然を次世代の子どもたちに残すことを目指したプログラム。ジェットスターの航空券をオンライン予約する際に、「未来遺産運動」の活動に寄付を募っている。

同社就航地でもある 愛媛県の内子町では、日本の農村風景を守り

継承する「村並保存活動」がプロジェクト未来遺産に登録されている。2019年9月には、ジェットスターの社員が、石畳自治会の方々とともに、村並み保存活動を支える産業のひとつ「石畳栗」の収穫活動を体験した。



皆で拾った「石畳栗」を前に

「プロジェクト未来遺産2019」登録決定

2019年12月11日（水）に未来遺産委員会（委員長：西村幸夫 神戸芸術工科大学教授）が開催され、「プロジェクト未来遺産2019」が決定した。詳しくはホームページに掲載。

<https://www.unesco.or.jp>

（企画部：青山 由仁子）

世界遺産活動 from カンボジア

ナーガ・シンハ彫像修復プロジェクト 完了間近

世界遺産アンコール遺跡群のひとつパイヨン寺院で、ナーガ（蛇）像とシンハ（獅子）像の彫像修復と、現地の若者を育成し、カンボジア人同士の遺跡修復技術継承を目指した本プロジェクト。現在、第4フェーズ（2020年3月終了）が順調に進み、終盤を迎えつつある。終了後は、本プロジェクトで技術を身につけた若者が経験を生かし、引き続きアンコール遺跡群の修復現場で活躍し、次世代を育てることが期待される。カンボジア人からカンボジア人へ、遺跡修復技術と遺跡の価値を伝え継いでいく。（事業部：穴戸 亮子）



技術を身につけた9人の修復作業員たち

世界寺子屋運動 from ネパール・カンボジア

ネパールの新しい寺子屋開所式典を実施

2019年10月16日、ネパール南部にあるチトワン郡でギタナガール寺子屋（CLC）の開所式典が行われた。式典には、地域の人びとをはじめ、中央政府の教育担当官や地方選出の国会議員など150人以上が出席し、大盛況のうちに終了した。この寺子屋は日本の企業や団体、個人の方のご支援によって完成した。皆さまのご支援に感謝申し上げます。式典には支援者である成田、富里ユネスコ協会および伊豆ユネスコクラブの代表者5名が駆けつけ、テープカットや日本からの支援の思いを伝えるスピーチを行った。



完成したギタナガール寺子屋



開所式典には150人以上が参加した

全富士通労働連「カンボジア寺子屋協力隊」がやってきた

全富士通労働組合連合会による毎年恒例のスタディツアー「カンボジア寺子屋協力隊」26名が現地を訪問した。メインイベントは、同連合会が2012年の設立以来支援する、タトラウ寺子屋での企画「課外授業」と「運動会」だ。課外授業では「音の伝達や音階の原理と歌・音楽」「空気・風力の原理と風車づくり」がテーマ。子どもたち

ちは、身近な素材を使ったやさしい説明と音楽演奏、ものづくり体験を学び大いに楽しんだ。運動会は、大縄跳び、綱引き、ボール送りなどたくさんさんの競技で盛り上がり、村には賑やかな歓声が響き渡った。

（事業部：穴戸 亮子）



ボール送りでダッシュする寺子屋の子ども。ブッタ所長も笑顔で参加。

南インド洪水支援



2019年8月、南インドの4つの州を中心に歴史的な豪雨と洪水が襲った。2002年から2012年まで「ゴカック寺子屋プロジェクト」を実施していたカルナータカ州も大きな被害を受けた。日本ユネスコ協会連盟では、以前のパートナー団体であるベルガウム農村総合開発協会（BIRDS）からの要請を受け、支援を決定した。BIRDSでは浸水被害を受けた学校の生徒や寺子屋を対象に、学校備品や文房具の支援をはじめ、浸水した寺子屋のメンテナンスを進めている。最終的な活動結果はホームページで報告する。（事業部：鴨志田 智也）

韓国ユネスコ協会連盟全国大会

10月25日・26日の2日間、韓国ユネスコ協会連盟の第34回全国大会が群山市で行われた。韓国ユネスコ協会連盟に加盟する19協会約500名の会員が参加した。本大会には、アジアユネスコ協会クラブ連盟(AFUCA)加盟国にも招待状が届き、日本か

らは鈴木佑司理事長らが出席した。開会式典の後、基調講演があり、盛大な交流会も行われ、熱気を感じる大会となった。また、日本と同様に招待を受けて参加した中国、ネパール、カザフスタン、キルギスタンの代表者と活動の情報交換を行うとともに、来年のAFUCAの執行委員会(改選)についての協議も行った。(事業部: 尼子 美博)



鈴木理事長らも登壇し熱気あふれる大会となった

理事会・評議員会報告

第532回理事会

11月16日(土) 東京都で第532回理事会を開催した。

冒頭、佐藤美樹会長より台風などで被災された方へのお見舞い、首里城復興ユネスコ募金への協力依頼が述べられた。続いて、協議事項の「第531回議事要録」「会員の入会(維持会員3、個人会員3)」「『知と平和の文化部会』の設置」「部会等(組織部会、財務部会、定款・諸規程改定検討部会、地域代表・青年代表理事会議)からの報告」「ユネスコ協会就学支援奨学金」運営委員会の委員の委嘱」「首里城復興ユネスコ募金の立ち上げ」について、それぞれ説明、質疑応答があり、全会一致で承認された。その後、報告事項の「2019年度中間決算報告」「加藤参与からの報告書(「経営戦略策定のための報告」)」「全国大会の総括」

「2019年8月から11月までの事業報告及び今後の日程」「後援・共催事業」「情報セキュリティ監査報告」の説明があり、了承された。

第49回評議員会

11月16日(土) 東京都で第49回評議員会を開催した。

冒頭、佐藤会長より会長就任にあたっての抱負が述べられた。続いて、理事・評議員の紹介、評議員会の構成・評議員の役割等についての説明の後、「2019年度以降の理事会運営に関する基本方針」「全国大会の総括」「2019年6月～11月の事業報告及び今後の日程」「これからの民間ユネスコ運動のあり方と2020年度からの変更点」の報告があり、質疑応答が行われた。その後、構成団体会員代表・青年代表・国内委員会委員の評議員が中心の「ブロック別情報交換会」にて、ブロックごとに活発な情報交換が行われた。

新規加入維持会員のご紹介

(ほか匿名1社)

東急建設株式会社

取締役社長 寺田 光宏

東急建設株式会社は、国連が提唱するSDGsの実現に向け、社会資本の整備を担うゼネコンとして、人材・社会・環境の分野で関わりの深い課題に優先して取り組み、事業活動を通じてその解決に貢献してまいります。

株式会社東京放送ホールディングス

代表取締役社長 佐々木 卓

当社は国連の「SDGメディア・コンパクト」に加盟し、また赤坂ACTシアターを再生エネルギー化するなど、持続可能な社会づくりを推進する姿勢を表明しています。平和で文化的な社会実現に貢献してまいります。

Innovating Energy Technology

エネルギー技術を、究める。

電気、熱エネルギー技術の革新の追求により、
エネルギーを最も効率的に利用できる製品を創り出し、
安全・安心で持続可能な社会の実現に貢献します。

FE 富士電機

富士電機株式会社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2(ゲートシティ大崎イーストタワー) TEL.03-5435-7111

お知らせ

みどりの絵コンクール

三菱UFJ環境財団と日本ユネスコ協会連盟の共催事業。第44回目となる今年も、全国の幼稚園、小学校から応募があり、「みどりの絵部門」では2万3307点から7点（各学年1点）、「わたしが守りたい身近な自然部門」では2035点から2点が最優秀賞に選ばれました。写真は、わたしが守りたい身近な自然部門の最優秀賞作品で、日本ユネスコ協会連盟賞に選ばれた作品です。



【ウミガメと一緒に泳いだよ】

鹿児島県知名町立住吉小学校1年 武元 新太

首里城復興ユネスコ募金

日ユ協連では、首里城の復興支援のための募金を受け付けております。皆さまのご協力をお願いします。

■銀行振込による募金

募金口座：みずほ銀行 恵比寿支店
普通 1568655

公社) 日本ユネスコ協会連盟

※同行からの振込手数料は免除となります。ただし、総合振込扱いでのお振込みは対象外となります。

日ユ協連のホームページから、クレジットカードによる募金も受け付けています。詳しくはホームページをご覧ください。



『男はつらいよ お帰り 寅さん』公開中

2019年9月8日(日)の日本ユネスコ運動全国大会に出演された山田洋次監督。映像で教育の本質に触れた「2019寅さんの学校論」は、参加者の心に深く響きました。講演で紹介された寅さん50作目『男はつらいよ お帰り 寅さん』が、12月27日(金)から全国ロードショーで公開。ぜひ劇場に足をお運びください。



©2019 松竹株式会社

訃報

丸田 謙二郎さん 小樽ユネスコ協会会長
2019年9月29日 80歳でご逝去
門間 孝一さん 福島県ユネスコ連絡協議会・
福島ユネスコ協会会長
2019年12月6日 81歳でご逝去
ご冥福をお祈り申し上げます。

募集

「ユネスコスクール SDGs アシストプロジェクト」助成校募集！

日ユ協連は、三菱UFJ銀行のご協力のもと、SDGs達成に向けた「持続可能な開発のための教育(ESD)」を実践するユネスコスクールを対象に、今年度も活動費用の助成を行います。

■助成金額：

10万円枠(50校程度) /
30万円枠(5校程度)
※詳しくは特設サイトまで。



中村哲さんに追悼の意を表します

2019年12月4日、アフガニスタンで長きにわたり人道支援に取り組むNGO「ペシャワール会」の現地代表で、医師の中村哲先生が銃撃に遭い亡くなりました。人の命を救うために、百の診療所をつくるより、一本の用水路をつくと決断した中村先生は、現地での広大な用水路整備に余生を捧げられました。2001年のアフガニスタン空爆により、数多くの難民が隣国パキスタンに逃れた際、日ユ協連が集めた募金を中村先生に託し、食料、医療支援を行いました。最後まで現地に寄り添い続け、信念を貫き通された中村哲先生のご急逝を悼み、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



故 鈴木幹夫理事(当時副会長)から「アフガニスタン難民支援緊急募金」を手渡した

今後の 主催事業 日程	2020	1月18日 第533回理事会、第50回評議員会、新年懇親会
		2月21・22日 アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム 活動報告会
		3月14日 第534回理事会

TBS

世界遺産 THE WORLD HERITAGE

毎週日曜日午後6時よりTBS系列で放送中

1月～3月ラインナップ

- 1月 5日 白神山地 (日本)
- 1月12日 ラス・メドゥラス (スペイン)
- 1月19日 特集：冬の絶景
- 1月26日 黄龍 (中国)
- 2月 2日 チャン・チャン遺跡地帯 (ベルー)
- 2月 9日 ロス・アレルス国立公園 (アルゼンチン)
- 2月16日 ニューカレドニアのラグーン (フランス)
- 2月23日 放送休止
- 3月 1日 セラード保護地域群 (ブラジル)
- 3月 8日 パース市街 (イギリス)
- 3月15日 バリ島の棚田と水利システム (インドネシア)
- 3月22日 放送休止
- 3月29日 特別企画

放送予定は変更される事もありますのでご了承ください。

<https://www.tbs.co.jp/heritage/>

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟は、UNESCO憲章の精神に共鳴した人びとによって1947年、世界にさきがけ仙台で始まった、民間ユネスコ運動の日本における連合体です。現在全国に約280のユネスコ協会があります。会長：佐藤美樹 副会長：青木保・引地瑠美子 理事長：鈴木佑司